# ご近所マップによる組・班単位を対象とした情報共有の試み
## －コミュニティ支援を意図したワークショップの実践と課題－

The Information Sharing for Kumi-scale Neighborhood Using Vicinity Map
- The Practices and Problems of the Workshops for Community Support -

○山家 京子[*1]、佐々木 一晋[*2]、加藤史絵奈[*3]、亀田昌宏[*4]、高橋 永[*5]
YAMAGA Kyoko, SASAKI Isshin, KATOH Shiena, KAMEDA Masahiro, TAKAHASHI Haruka

There appeared two problems in the disaster prevention map workshop held to activate local communities. The one is to activate more residents' interests and the other is the active use and the maintenance of the maps. We report on "Vicinity map" circular board as an attempt of sharing the disaster prevention information for Kumi-scale neighborhood in 2009. "Vicinity map" is a circular board with the message board that shares disaster prevention information according to each family. Actually, the trial of "Vicinity map" circular board was executed by 141 families belonging to 12 kumis. As a result, we could examine its efficiency as a tool to support the residents' participation.

キーワード：防災まちづくり、住民参加、ワークショップ、コミュニティ
*Keywords: Town Planning for Disaster Prevention, Residents' Participation, Workshop, Community*

### 1. はじめに

都市住宅地の多くに共通する課題として、コミュニティの強化があげられる。阪神淡路大震災以降、被災時におけるコミュニティの重要性が繰り返し指摘されてきたが、防災・防犯はもとより、住宅地の持続可能性を考える上でコミュニティは大きな鍵となる。

鎌倉市では、第3次総合計画第2基本計画において、コミュニティ活動の活性化に向けた支援を行うとしている。そのモデル事業として、0地区（0自治連合会）は「コミュニティマップ」をテーマに地域の課題とその解決策の協議等の取り組みを行うこととなった。0地区は防災に関心が高く、防災を主題とした「コミュニティマップ」すなわち「防災マップ」作成ワークショップを行うこととなり、筆者らが企画・運営に関わる協力支援を行った[1)2)]。ワークショップ（以下、WSと略記）は2008, 2009年度の2年に渡り実施され、0自治連合会、近隣中学校のPTA 関係者、公募市民によるまちづくりサポーター、鎌倉市職員が主体となり、毎回40名程度が参加した。

WSでは参加者の協力や防災意識の高さもあり、防災マップ作成作業は順調に進んだが、完成が見えたあたりから別の課題も意識されるようになった。まず、住民の関心の掘り起こしである。参加者が自治会役員を核とするメンバーに固定化し、当初の目的である「コミュニティ活性化」の達成に疑問が生じた。一人でも多くの住民がこの活動に関心をもち、さらに関わるように仕掛けることが企画・運営側の課題となった。一口にコミュニティと言っても、向こう三軒両隣、ゴミ出しの範囲、回覧板を回す組・班、自治会、自治連合会など、コミュニティを構成するスケールには段階がある。住民個人を対象とした関心の掘り起こしだけでなく、これら様々なスケールに対応する取り組みが必要である。

次に、防災マップの活用と維持に関する課題である。全戸配布を前提に作成された防災マップは、WS参加者の意図がよく反映されたものとなっている。自治会で定めた私有地の一時集合場所など、自治体が作成する場合なかなか掲載が難しく、かつコミュニティにとって重要な情報も掲載されている。しかし、WSに参加していない一般の住民にとって、一方的に提供された情報に対する関

*1　神奈川大学工学部建築学科　教授・博（工）　Professor, Kanagawa Univ., Dr.Eng.
*2　産業技術大学院大学　助教・修（工）　Assistant Prof., Advanced Institute of Industrial Technology, M.Eng.
*3　中日本高速道路（株）　修（工）　Central Nippon Expressway Co.Ltd, M.Eng.
*4　日本総合住生活（株）　修（工）　JSCorporationCo.Ltd., M.Eng.
*5　HMA Architects & Designers　修（工）　HMA Architects & Designers, M.Eng.

心は薄く、それはスケールが大きいほど増長される。また、情報の更新、すなわち情報の維持管理については、理想的には住民自らの手によって更新可能な仕組みの構築が望ましく、災害時用援護者の情報など必要な情報の掲載も活用を促すことになるだろう。

これら2点の課題は多くのまちづくりにおいて共通する課題でもあり、WSではこれら2点の課題をふまえ、いくつかの取り組みを行った。本稿は、それらの取組みを概観しつつ、組を対象とする情報共有の試みとして2009年度に行った「ご近所マップ」回覧板について詳細に報告し、その成果と課題について検討することを目的とする。「ご近所マップ」は、回覧板を回す組を利用し、自己申告により世帯に関する防災情報を共有するとともに、コミュニケーションを促す伝言板機能を付加した回覧板である。組を対象としたのは、顔の見える範囲であること、災害時要援護者の情報共有を図るのに適したスケールであると考えたからである。まちづくりWSでは、さまざまな情報共有の試みがなされているが[注1)]、組を対象とし、回覧板を利用した試みは見られない。

第 2 章で対象住宅地の特徴を述べ、第 3 章でワークショップの概要と回覧板以外の取組みを概説する。第 4 章で「ご近所マップ」回覧板の取り組みについて詳細に説明し、アンケート調査とヒアリングにより検証を行う。第 5 章で本試みの成果と課題についてまとめる。

## 2. 鎌倉市 0 地区の特徴

0 地区は鎌倉市南東部、逗子市との市境に位置し、別荘地・避暑地として発展してきた旧市街地の住宅地と比較的新しい谷戸の住宅地から成り、9 つの自治会町内会で構成される。古都法に守られた緑や路地、社寺建築といった歴史的景観が現在でも多く残る一方で、旧建築基準法時に建てられた木造住宅に囲まれた狭隘道路は行き止まりも多く、道路ネットワークには課題が多い。さらに、旧市街地の一部は関東大震災時に津波浸水の被害を受けており、防災に対する意識は高い（図 1）。

平成 17 年度国勢調査（2005 年）によると、0 地区の人口総数は 7,575 人、世帯数が 3,187 世帯である。65 歳以上の人口が 2,125 人（高齢化率 28.0%）であり、高齢化が懸念される地区である。

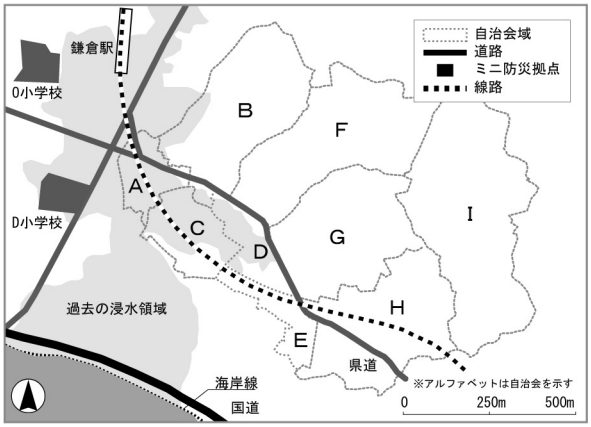


図1. 鎌倉市0地区

## 3. ワークショップの概要と主な取り組み

### 3-1. 概要

0 地区住民との交流・意見交換を図りながら、2008 年度は発足会を含め 6 回、2009 年度は 5 回の WS を行った（図 2）。WS で試みた取り組みは、防災マップ作成の他、地域カルテ、Vuto、ボードゲーム、住民アンケート調査である。それぞれの参加者、対象、概要を表 1 に示す。

### 3-2. 防災マップ

0地区を構成する9つの自治会ごとに防災マップに必要な情報として、地区内の避難場所（一時集合場所及び避難可能な場所）、ミニ防災拠点までの避難経路、危険箇所・想定利用箇所（表2）を抽出した。それぞれの情報を地図に書き込み参加者で確認した。作業は各自治会5〜6

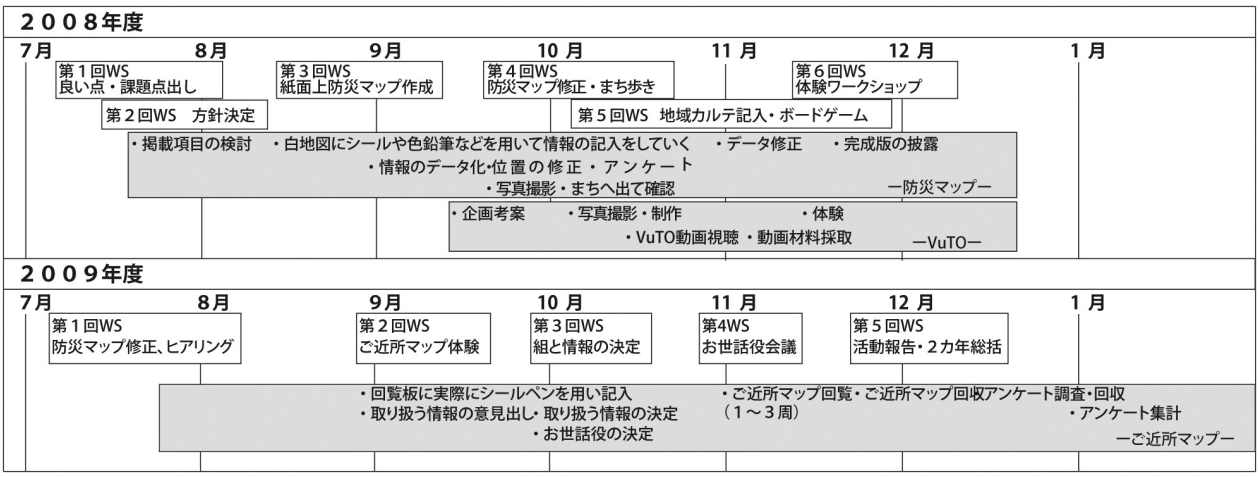


図 2. 防災マップ作成ワークショップの流れ

表 1. ワークショップにおける取り組み

| | 参加者 | 対象 | 概要 |
|---|---|---|---|
| 防災マップ【3-2】 | WS 参加者（0 自治会役員など） | 個人／自治会 | 自治会ごとに防災マップを作成。地区内の避難所、ミニ防災拠点までの避難経路、危険箇所・想定利用箇所を WS 参加者により抽出し地図に落とし込んだ。防災に対する備えなどと合わせて冊子化し全戸配布した。 |
| 地域カルテ【3-3】 | WS 参加者（0 自治会役員など） | 自治会 | 自治会ごとに地域の課題とその解決策を地域カルテとしてまとめた。課題は防災、交通、道路整備、住宅・住環境、下水道・河川に分類され、解決策は地区として取り組めること、行政に依頼すべき事に分けて記入した。 |
| Vuto【3-4】 | 一般住民<br>（自治会主催イベント参加者） | 個人 | 移動型携帯情報端末を用いた防災情報の体感企画。災害のシミュレーション、避難場所や消火器などの防災情報を音と映像によって体感する。自治会主催のイベントにおいてオリエンテーリング形式で実施した。 |
| ボードゲーム【3-5】 | WS 参加者（0 自治会役員など）、<br>一般住民（自治会行事参加者） | 個人／自治会／<br>自治会間 | 0 地区全体を対象とした双六形式のボードゲームを作成した。WS で抽出された防災に関する課題を反映させるとともに、自治会間の連携の意識づけを目的としている。WS で実施するとともに、自治会主催のイベントにおいても子供とその母親を中心とする一般参加者に体験してもらった。 |
| 住民アンケート調査 | 一般住民（輪番制の班長） | 個人／自治会 | 防災に関する課題と避難経路についての情報を得るために、一般住民（輪番制で選ばれた班長）を対象としたアンケート調査を実施した。結果は WS で報告するとともに、防災マップ、地域カルテ、ボードゲームに反映させた。 |

表 2. 危険箇所・想定利用箇所

| 危険箇所 | 想定利用箇所 |
|---|---|
| 急傾斜地崩壊危険区域、崖、４m以下の道路、ブロック塀、石垣、トンネル、橋、浸水履歴エリア | 消火栓、貯水槽（飲料水）、井戸（災害時協力用、使用可能）、給水拠点、病院、デイサービス、居宅介護施設、コミュニティセンター、自治会館、寺、神社、自治会倉庫、防災倉庫、スピーカー、消火器、掲示板、ＡＥＤ、商店、防犯連絡所、駐車場 |

表 3. 記載記号概要

| 記号種類 | 概要 | 記号内容 |
|---|---|---|
| 円記号 | | 集合場所、一時避難が可能な場所 |
| 赤色記号 | 災害時危険なもの | 水害、トンネル、橋 |
| 緑色記号 | 災害時頼りになるもの | 病、居宅介護施設、商店、防犯連絡所、駐車所、駐車場、寺、神社、スピーカー、消化器、AED、自治会館、防災倉庫、幼稚園、掲示板 |
| 青色記号 | 水関係の頼りになるもの | 消火栓、井戸（災害時協力用）、井戸（使用可能）、防水槽、給水拠点 |
| 線記号 | | 急傾斜地崩壊危険区域、４m 以下の道路ブ、ロック塀、崖、避難経路 |

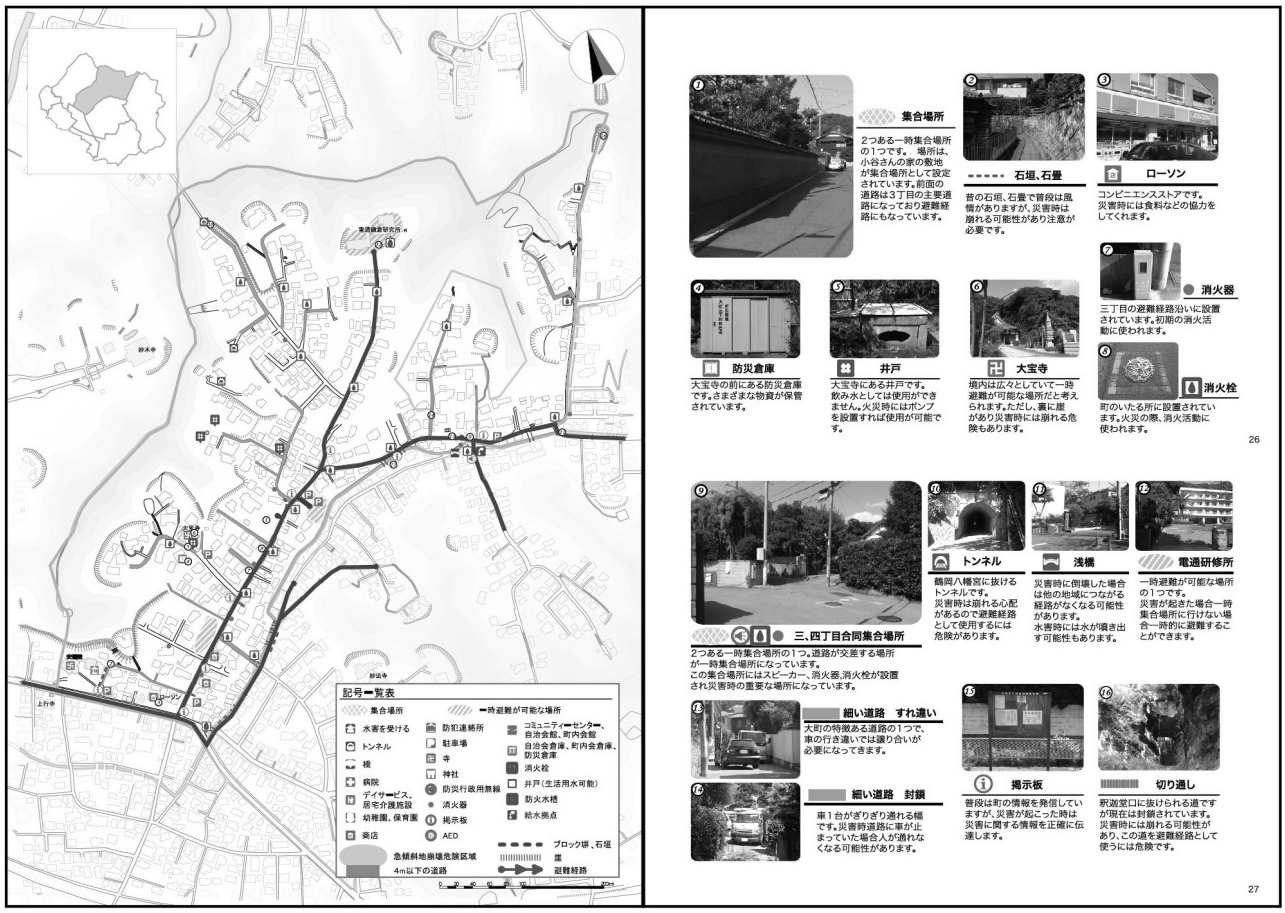


図 3. 防災マップ

名程度で行い、各自治会域を示したA1版の白地図にシールや色鉛筆等で情報を加えていく形式で行った。防災マップに必要な情報は表3のように記号化し、完成した防災マップは図3のとおりである。

### 3-3. 地域カルテ

自治会ごとに地域の課題とその解決策を地域カルテとしてまとめた。課題は防災、交通、道路整備、住宅・住環境、下水道・河川に分類され、解決策は地区として取り組めること、行政に依頼すべきことに分けてシートに記入する。例えば、課題「災害時における高齢者の救援体制」に対し、自治・町内会として取り組むこととして、「回覧板やご近所マップを利用して、ある程度事前に情報を取得しておく」をあげ、行政に「救援体制の検討」を依頼し、行政側は「災害時要援護者登録制度」の紹介という形で回答している。課題の解決を行政へ依頼するだけでなく、自分たちで取り組めることの検討を促すことを意図している。

### 3-4. VuTO

VuTo は移動型携帯情報端末を用いた防災情報の体感企画で、Vulnerable Tracking project in O_district の略である。vulnerable は「傷つきやすい、攻撃されやすい」の意味で、O地区の災害に弱い箇所をたどることにより、防災意識を高めることを意図している。災害発生時に被害が予想される場所、災害時に必要となる避難場所や消火器のような装置を、移動型携帯情報端末を用いて［音］と［映像］によって紹介する（図4）。また、実際にまちを歩きながら、防災マップに記載された防災情報を確認する機能も付加している。

2008年度自治会主催のイベント[注2)]（第6回WSを兼ねる）において、オリエンテーリング形式で実施した。イベント会場付近で防災マップに記載されている6つの箇所（図4：地図上の番号）を巡り、その箇所で移動型携帯情報端末の動画を再生すると被災シミュレーションや防災情報が確認できる仕組みとなっている。

### 3-5. ボードゲーム

O地区全体を対象とした双六形式のボードゲームを作成した（図5）。WSで抽出された防災に関する課題を反映させ、一般住民の関心の掘り起こしとともに、自治会間の連携の意識づけを目的としている。O地区は地形上の制約や過去の災害経験から、災害時の避難に大きな課題を抱えており、課題を解決するには隣接する自治会が適切に連携することが重要であることがWSにおいても示された。ボードゲームのテーマは「災害時の情報共有」で、プレイヤーが互いに協力し連携することにより情報共有が図られ、「あがり」となるようデザインした。WSで実施し参加者に有用性に関する評価を求めるとともに、自治会主催のイベント[注2)]においても子供とその母親を中心とする一般参加者に体験してもらった。

図4. VuTO

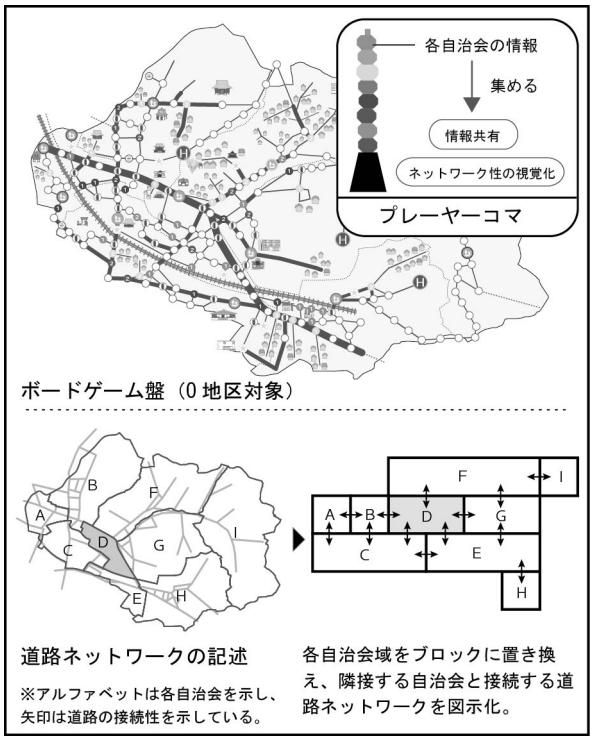


図5. ボードゲーム

## 4. 「ご近所マップ」回覧板

### 4-1. 目的と概要

「ご近所マップ」回覧板は、組を対象とし、自己申告により世帯に関する防災情報を共有する「ご近所マップ」とコミュニケーションを促す「伝言板」から構成される。

「1．はじめに」で示したワークショップ途中で得られた課題のうち、住民の関心の掘り起こしに関しては、ワークショップ参加者とは異なる層を対象とすること、及び自身が関与する仕組みにより、関心の拡大を意図している。防災マップの活用と維持に関しては、2008年度に作成した防災マップを回覧板の表紙に掲載し目に触れる機会を増やしたこと、またスケールをより身近にした「ご近所マップ」を新規に作成することにより、活用を促すことを意図した。防災マップは、ワークショップ参加者によって選ばれたローカルな情報を掲載したものだが、全戸配布を前提としたため、災害時要援護者の情報など個人が特定される情報の記載は行わなかった。こうした災害時要援護者の情報共有は防災上極めて有効であり、「ご近所マップ」では自己申告による共有を試みた。また、住民自身の手による簡便な更新を意図したデザインとし、住民による情報の更新・維持管理を意識した。

一方、防犯やゴミ置き場の問題などにより身近で日常的な情報の共有は、コミュニティ活性化に繋がると考え、伝言板機能を付加した。

### 4-2. 体裁

**体裁**：「ご近所マップ」回覧板は、A4サイズ厚み30ミリのバインダーで既存の回覧板を少し分厚くしたサイズとなっている。表紙は2008年度に作成した自治会の防災マップである。A3 サイズの「ご近所マップ」とA4 サイズの伝言板から構成され、「ご近所マップ」は組で共有する防災情報、「伝言板」は日常的な情報を自由に書き込むページとしてデザインしている。バインダーを開くと、見開きで「ご近所マップ」と「伝言板」同時に見ることができ、次に示すシールなど情報を書き込むキットをクリアファイルでリング綴じている（図6）。

図 6. ご近所マップ

**シール**：3種類のシールを用意し、住民が自らシールを使いながら情報を書き込むよう設定している。シールを使う楽しさと文字を書く面倒を減らし、情報を加える心理的負担を減じることを意図している（表4）。

表 4. シールの説明

| 名称 | 道具シール | 家族シール | 生活シール |
|---|---|---|---|
| 形状 | ● | ➡ | □ |
| 情報 | 各世帯が保有する災害時に役立つ道具を表す。各自治会で道具の種類を決定し、シールの色を増やすことで追加できる。 | 世帯を構成する人の情報を表す。シールを貼るだけでなく具体的な情報を書き込むことも可能。［気にかけてシール］は災害時手助けが必要なことを表し、［お役立ちシール］は災害時役に立てることがある人を表す。 | 日常で起こった出来事やご近所さんに伝えたいこと、独り言、防災情報などを自由に書き込むときに使うシール。<br>ごみステーションはきれいに使ってください！！ |
| 例 | 懐中電灯<br>消火器<br>ヘルメット<br>救急箱<br>スリッパ<br>バール | ［気にかけてシール］<br>妊婦、幼稚園児、身体障害者、1人が多い<br>［お役立ちシール］<br>看護師、医者、民生委員、AED 講習修了者、子供好き | 祭りの出店のお誘い<br>防災のお役立ち情報<br>バスツアーの招待<br>蜂の注意<br>ゴミ出しのマナー<br>ペットの管理について |

**ご近所マップ**：回覧板を回す組を対象範囲とし、家族の人数、各家庭にある災害時に役に立つ道具、住んでいる家族の情報を表す。それぞれの世帯に相当する場所に家アイコンと道具シールを貼る欄が設けられている。家アイコンに家族人数を書き込み、各世帯が保有する災害時に必要な道具についての情報（道具シール）と家族の情報（家族シール）を加える。「家族シール」には「気にかけてシール」と「お役立ちシール」があり、いずれも自己申告を前提としている。例えば、夫婦二人暮らしで消火器を所持し、妻が看護師の場合は図 7 のように記入する。

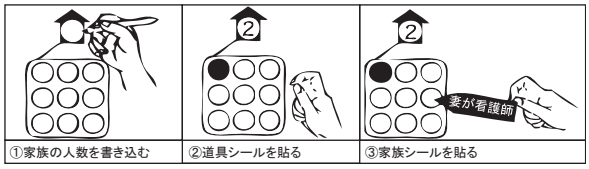


図 7. 道具シール・家族シール

**伝言板**：日常的な近所に関わる情報（ご近所情報）を共有することにより、路上の立ち話やあいさつ程度のゆるやかな近隣関係の形成を意図している。生活シールを利用し、情報を提供するだけでなく、書き込みに対して返事や追加の情報を加えることができる（図8）。

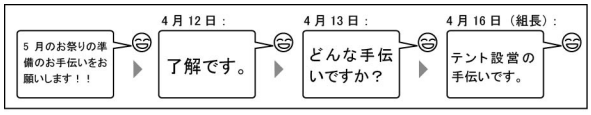


図 8. 生活シール

### 4-3. 回覧の実施

ワークショップ参加者が所属する組の中から協力の得られた9自治会12組で実際に「ご近所マップ回覧板」の回覧を実施した。それぞれの組の世帯数は7から17、平均世帯数は12、総世帯数は141である。ワークショップ参加者が「お世話役」となり、組の住民や市役所、学生と連絡を取り合うことで活動を進めた。「ご近所マップ」回覧板は、回覧する度に情報が更新されるため、3周を目標とし、2009年11月3日から11月29日にかけて以下のような流れで回覧を行った（表5）。実際には1周で終わった組や2周目の途中で回収した組もあった。

**表 5. ご近所マップ回覧の流れ**

| | | |
|---|---|---|
| 第１回 WS | 昨年度作成した防災マップの修正と回覧板についてヒアリングを行った。 | |
| 第２回 WS | ご近所マップを作成する過程を自治会ごとに体験し、取り扱う情報について意見を出し合った。 | |
| 第３回 WS | 実際に回覧板をまわす組と回覧版の使い方やご近所マップについて説明をするお世話役を決めた。扱う情報も決定し、９自治会１２組がご近所マップの活動に参加することになった。 | |
| 第４回 WS | 学生が作成したご近所マップ用の回覧板とチラシ、お世話役マニュアルをお世話役の方にお渡しし、まわし方や使い方について確認を行った。ワークショップ参加者を中心にお世話役を決定し、各家庭にチラシ配布、お世話役による主旨説明。 | |
| 回覧 | １周目 | 家族の人数を書き込み道具シールや家族シールを貼る。生活シールに伝えたいことやお願いを書き込む。 |
| | 2,3 周目 | 他の家庭の家族の人数や道具シール、家族シールを確認する。お世話役が新しい道具シールを追加し、追加された道具を持っている人は道具シールを追加する。生活シールに書き込まれたことに返事を書いたり、新たに伝えたいことやお願いごとを書き込む。 |
| | 11 月 29 日 | お世話役が新しい道具シールを追加し、追加された道具を持っている人は道具シールを追加する。生活シールに書き込まれたことに返事を書いたり、新たに伝えたいことやお願いごとを書き込む。 |
| 第５回 WS | 回覧板に記載された内容やお世話役の方のヒアリングからご近所マップの活動について報告を行った。 | |

### 4-4. 書き込まれた情報

**ご近所マップ**：各組で無記入の世帯が0～3世帯、総数で15世帯あった。無記入の世帯を除く126世帯中「気にかけてシール」34件、「お役立ちシール」42件。「気にかけてシール」は災害時要援護者の他、幼児や妊婦、一人暮らしなど、「お役立ちシール」は医師や看護師の他、AED講習修了者、力持ちや子供好きなどの書き込みがみられた。表6に一覧を示す。表中（　）内の数字は、複数件あった場合の件数を示す。

**伝言板**：全く使用されなかった組が2組ある一方で、24枚の「生活シール」が使用された組もあった。全体で86枚の「生活シール」が使用され、組平均は約7枚である。生活シールに書き込まれた情報は、防災に関する情報（消火器、工具、避難場所、防災無線、井戸、水の備蓄など）が最も多く、行事のお誘い、ゴミ出しのルール、近所の迷惑行為、子供やペットを巡る会話、「ご近所マップ」に関する感想などである。図9に記入例を示す。

**表6. 気にかけてシール・お役立ちシール一覧**

| |
|---|
| 気にかけてシール |
| 高齢者（12）、身体が不自由（5）、幼児,子供（5）、妊婦,単身（5）、その他（3）、無記入（6） |
| お役立ちシール |
| 医師,看護師,救命技能（2）、救急救命援助士,AED 講習修了（3）、ケアマネージャー,民生委員、防犯連絡所,子供好き（2）、力持ち（4）、協力（10）、井戸（5）、その他（7）、無記入（4） |

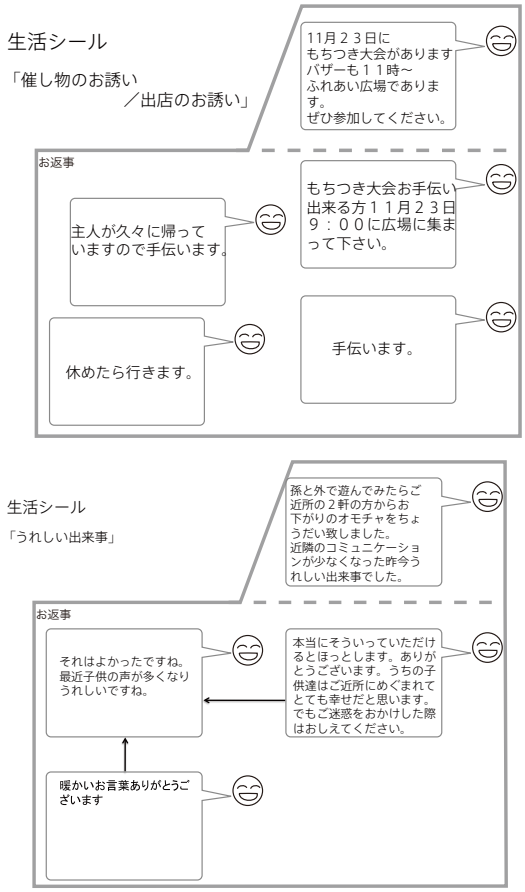


**図 9. 生活シール記入例**

### 4-5. 評価と課題

#### 1）アンケート調査

「ご近所マップ」を回覧した住民を対象とし、アンケート調査を実施した。2009年12月13日から1月末日までの約1ヶ月と期間を定め、各組のお世話役に配布を依頼し、郵送にて回収した。配布数121、有効回収数63、有効回答率52.1％であった。

**質問１「現状の近隣関係に対する評価」**：図 10 のように選択式でたずねた。約 4 割が「現状の結びつきが強く、今後もこの状態を維持したい」と回答している。現状に対する評価としては半数が「結びつきは強い」とし、近隣関係については 6 割が必要と感じている。

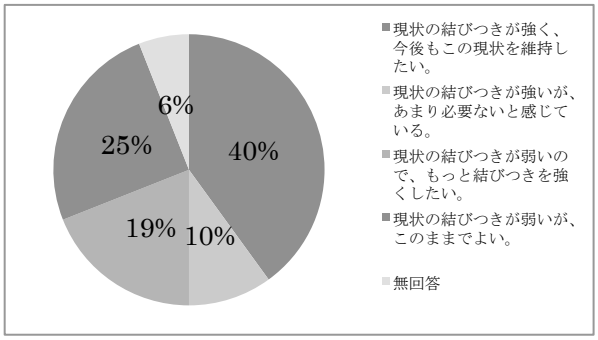


図 10. 質問 1：現状の近隣関係に対する評価

**質問２「近所で共有してもよい情報」**：図 11 のように複数選択式でたずねた。「防災」「防犯」に関する情報は 8 割前後、「公共機関からのお知らせ」「手助けが必要な人の情報」は半数以上が共有してもよいと回答している。一方、「趣味」「留守」のようなより個人的な情報は約 3 割が共有したくないと回答した。

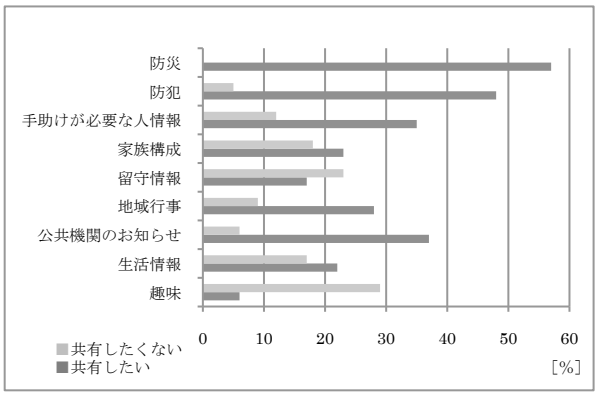


図 11. 質問 2：近所で共有してもよい情報

**質問３「ご近所マップ回覧に対する評価」**：まず、「活動に対する評価」を図 12 のように選択式でたずねた。7 割が「大変有意義である」「少しは役に立った」と回答し、肯定的な意見が多くみられた。その理由として、4 割が「実際に会話が増えた」「挨拶が増えた」「近所の様子を知ることができた」と回答している。しかし一方で、「近隣関係に変化があったか」との問いには、6 割が「変わらない」と回答しており、この結果は質問 1 で約半数がもともと結びつきは強いと答えていることと関連していると考えられる。

また、「回覧板をまわしてよかったと思うこと」「改善点」「今回の活動について感想や意見」を自由筆記で記述してもらった（表7）。「面倒だと思っていたがやってみると面白かった（C -2）」「年齢差を越えた交流に役立つ（C-3）」など今回の試みを評価する意見も多く寄せられた。一方で「防災など共通の話題がないと難しい（B-1）」「プライバシーの保護が難しい（B-5）」など問題点や、期間や回覧の範囲についての改善を求める声もあった。しかし「コミュニティや防災について考えるきっかけになった（C-5,C-8）」「各家庭で情報を判断させ、情報提供が強制でないところがよい（C-1）」など、回覧の意図を理解した意見もあり、概して活動には肯定的だと言えよう。

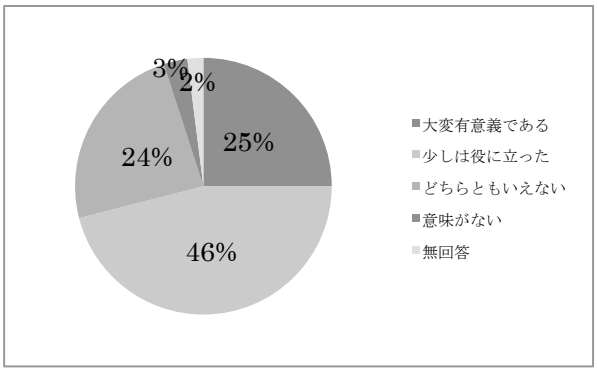


図12. 質問3：ご近所マップ回覧に対する評価

表 7. 質問 3 の自由筆記回答（全体）

| | |
|---|---|
| 回覧板をまわしてよかったと思うこと | |
| A-1 | 普段から子どもが迷惑をかけているのではないか心配だったので、生活シールでそのことについて意見が聞けてよかった。 |
| A-2 | 防災意識が向上した。 |
| A-3 | 紙面上でもコミュニケーションが取れた。 |
| A-4 | 世話役はご近所と仲良くなったが全体ではわからない。 |
| A-5 | ご近所の方と挨拶はするが、ゴミ捨てや落葉拾いなどの情報交換はしないので情報交換の場が持てたことがよかった。 |
| A-6 | お互いに考えていることを言えたので刺激があった。 |
| A-7 | 顔見知りが増えた。 |
| A-8 | 情報を提供することでご近所とつながりができた。 |
| A-9 | お世話役として伺った時に２０分ほど話した。通常こんなに話をすることはないのでよかった。 |
| 改善点 | |
| B-1 | 防災など共通の話題がないと難しい。今回は生活シールでゴミの話が出た。 |
| B-2 | 期間が短かった。 |
| B-3 | なぜお互いのことを知るべきなのか目的を明確にしないと知っただけで終わってしまう。 |
| B-4 | 定期的に行うべき。 |
| B-5 | プライバシーの保護が難しい。 |
| B-6 | 情報の設定や回覧する範囲。 |
| B-7 | 携帯やパソコンで共有できると便利。 |
| 今回の活動について感想や意見 | |
| C-1 | 各家庭で情報を判断させ、情報提供が強制でないところがよい。 |
| C-2 | 面倒だと思っていたがやってみると面白かった。 |
| C-3 | 年齢差を越えた交流に役立つ。 |
| C-4 | 一人暮らしの高齢の方が『うちは一人暮らしなので宜しく』と、百も承知なことを伝えに回覧板を持ってきた姿に疎外感を感じた。 |
| C-5 | コミュニティについて考えるきっかけとなった。 |
| C-6 | 今後も続けてほしい。ご近所だけでなく客観的な離れた立場の人が入ってくれたら冷静な判断ができてよいと思う。 |
| C-7 | なかなか集まって話し合うことは難しいが、コミュニティの活性化を考えると必要だと思う。 |
| C-8 | これを機会に防災について考えようと思う。 |
| C-9 | 今回はお世話役との会話があって有意義だったが生活シールだけでは会話の広がりに限界があるのでイベントが必要。 |

### 2）お世話役へのヒアリング

お世話役へ、工夫した点、改善点と活動の評価について、ヒアリングを行った[注3)]。ヒアリング結果を表8にまとめる。

**工夫した点**：わかりやすさ（「別に説明書を作成した（D-5）」「1軒1軒説明した（D-7）」）、防災情報の追加（「避難経路（D-4）」）、意欲の増進（「近所で顔の

広い住民に協力を依頼（D-8）」「伝言板に防災YES/NOクイズを追加（D-1）」）について工夫がなされていた。

**改善点**：「お世話役の負担が大きい（E-1）」「回覧板のサイズやシールの材質（E-4,5,6）」「範囲と留守がちの世帯への対応（E-7）」「防災をテーマにするなどテーマを絞り込んだ方がよい（E-2）」、などの意見が寄せられた。

**活動の評価**：「防災意識の向上や緊急時の助け合いを意識した雰囲気作りに役立った（F-1,2）」「会話が生まれた（F-5）」「思ったより協力的だった（F-8）」、などが評価された。

**表 8. お世話役へのヒアリング（全体）**

| | |
|---|---|
| 工夫したところ | |
| D-1 | 生活シールでYES/NO形式の質問をした |
| D-2 | 絵を書いて説明した |
| D-3 | まわす順番を書いてある紙を追加した |
| D-4 | マップに避難経路を追加した |
| D-5 | 回覧板の物とは別に説明書を作成した |
| D-6 | 複雑にならないように行う作業を分担して指示をした |
| D-7 | １軒１軒お宅に訪ねて説明した |
| D-8 | 顔が広い女性の方に回覧板の協力をお願いした |
| 改善すべきところ | |
| E-1 | お世話役に負担がかかる |
| E-2 | もう少し防災について考えられるものにすべき |
| E-3 | 主旨を理解するのに時間がかかる |
| E-4 | 回覧板のサイズが大きすぎる |
| E-5 | シールの材質検討（ボールペンで書けない） |
| E-6 | シールの出し入れが不便 |
| E-7 | 留守の人に対しての対応を考えるべき |
| E-8 | もっと小さい単位でまわすべきだった |
| E-9 | お世話役に女性の方に頼んでみては |
| E-10 | お世話役以外の参加者にも事前の説明が必要 |
| E-11 | 書きたい時に手元にない。常時どこにあるかわからない |
| E-12 | 情報提供が強制でないことをもっとはっきり書くべき |
| 今回の活動が組の人たちの交流に役立ったと思うか | |
| F-1 | 緊急時の助け合いの雰囲気作りに役立った。 |
| F-2 | 防災意識の向上に繋がると思った。 |
| F-3 | 防災の第一歩に |
| F-4 | 年代の違う人とのコミュニケーションの架け橋に |
| F-5 | 回覧して会話が生まれた。 |
| F-6 | 普段から知らない人から情報が見れた。 |
| F-7 | 義理でまわしてもらったが若い人に理解 |
| F-8 | 近所の方が思ったより協力的だった。 |

## 5. まとめ

ここでは鎌倉市0地区を対象とした防災マップ作成WSで試みたいくつかの取り組みと、「ご近所マップ」回覧板による組単位での情報共有の試みについて報告した。

WSで得た課題のうち、コミュニティ活性化を意図した関心の掘り起こしについては、VuTOやボードゲームなど幅広い市民層に向けたツールで防災に関心の薄い層の取り込みを図った。「ご近所マップ」は自治会と住民のちょうど中間的なスケールを対象とし、災害時に顔の見える範囲をつなぐツールとして、アンケート調査やヒアリング結果から一定の評価が得られたものと思われる。災害時要援護者の情報を取り込めたことも成果は大きい。また、マップの活用と維持に関しては、住民の関与を前提とした参加型ツールが提案できた。

課題として、お世話役へのヒアリングにあるとおり、回覧板を回す「組」が広かったことがあげられる。WSにおいても要援護者などの情報を共有するには範囲が広いという声や、ゴミステーションを共有する範囲の方が「ご近所」の実感に近い、などの意見があった。また、お世話役が各家庭に出向いて説明を行った組もあり、このこと自体がコミュニティの強化に大いに役に立ったという意見がある一方で、お世話役に負担を感じたという声もあった。当事者である住民の関与の度合いが増えるほどコミュニティ活性化の成果は期待されるが、それに伴う負担が課題となった。こうした一部住民の負担や情報の維持管理など、「ご近所マップ」回覧板そのものに汎用性をもたせ、住民の主体的な活動に展開するにはまだ課題は多い。しかし、スケールに応じた取り組みを試行することで、コミュニティー支援のひとつの可能性が示せたものと考える。

---


**［参考文献］**

１）石坂佳美，齋藤千夏，山家京子，佐々木一晋，高橋永：鎌倉市大町地区におけるコミュニティ支援を意図したワークショップの実践と課題 その１　防災マップ作成支援と移動型携帯情報端末を用いた防災空間の提供，日本建築学会大会学術講演梗概集，F-1，pp. 483-484，2009年8月.

２）加藤史絵奈，亀田昌宏，山家京子，佐々木一晋：鎌倉市大町地区におけるコミュニティ支援を意図したワークショップの実践と課題　その２　回覧板ネットワークを用いたご近所情報共有の試み，日本建築学会大会学術講演梗概集，F-1，pp. 233-234，2010年9月.

３）市居嗣之、柴山明寛、村上正浩、佐藤哲也、久田嘉章、生井千里：平常時・災害時での利活用を目的とした防災情報共有支援 WEBGIS の開発,日本建築学会技術報告集 No.22,pp.553-558,2005

４）大窪健之、小林正美：市民参加を促進するためのインターネットを利用した災害図上訓練（DIG）に関する研究,日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1,pp.475-476,2006

５）大貝彰、郷内吉瑞：防災まちづくりワークショップのための防災対策立案支援システムの試験的開発,日本都市計画学会都市計画論文集 No.41-3,pp.283-288,2006

６）矢守克也・吉川肇子・網代剛：防災ゲームで学ぶリスク・コミュニケーション,ナカニシ出版,総頁数 175,2005


**［補注］**

注１）まちづくり WS に援用される情報共有の仕組みとして、WebGIS など情報技術を援用したワークショップをベースとする取組みが多く見られる他[3)4)5)]、PC をベースとしない防災教育・情報共有ツールとして、クロスロード[6)]や防災すごろく等も開発されている。

注２）自治会主催で毎年 11 月末に行われる地域のお祭りで、世代や自治会に捉われない交流の場となっている。

注３）お世話役へのヒアリングは、回覧板回収（2009 年 11 月 29 日）後、12 月上旬に電話インタビューで実施した。12 組中 11 名のお世話役が応じた。インタビューは 2 名 1 組で、1 人が電話応対し、1 人がメモをとる形式で行った。


**［謝辞］**

「0地区コミュニティマップ作成プロジェクト」にご協力、ご参加していただきました、鎌倉市0地区自治連合会役員の方々、まちづくりサポーターの方々及び鎌倉市市民活動課の方々にはここに記して謝意を表します。